

事業		30年度 of 取組み状況	30年度事業評価・課題	31年度 of 取組み計画
高齢者 相談センターの 重点課題 重点目標 運営方針		★総合相談については情報を共有し、対応方法について職員間で検討するようにした。認知症に関する事例も多く初期集中支援チームとの連携を4件おこなった。 ★社会資源の把握や情報の整理についてはキャラバンメイトの会「ひまわりの会」で認知症に関する「あじさいマップ」や 第2層協議体「我がまち支え合いワークショップ」で買い物支援に関する取り組みを行った。「あじさいマップ」については完成しておりサポート登録事業所に作成に携わったキャラバンメイトが配布するだけでなく、市の健診の待ち時間に説明し配布することができた。 ★過年度に開校した2笑学校については後方支援の継続、今年度開校した2箇所については立ち上げ支援から後方支援へと移行することができた。 ★出前講座や地域の事業にも昨年同様出席。 ★広報紙は毎月発行し、ブログのほかtwitter,facebook,と広報の方法も拡げるように努めた。	★年度初めに計画した事柄についてはほぼ達成。事業遂行のためには多くの人の協力が必要。今後も地域に出掛け連携強化に努める。	★地域に暮らす高齢者が住み慣れた環境で自分らしい生活を継続させるための支援を心がけます。地域住民や関係団体、サービス利用者や事業者の意見を広く聞き日々の活動に反映するよう努めます。業務への理解と協力を得るためのパンフレットや広報誌等を活用し様々な場所で周知活動を継続して行います。ブログ、twitter,facebookについても引き続き活用していきます。年間の事業計画を作成し担当者も概ね決定しているので計画通りに進められるように協力して業務にあたる。
包括的 支援事業	総合相談支援業務	★相談に対しては生活全般の状況把握に努めた。基本情報やアセスメント、経過については全職員が閲覧できるシステムに記録に残すとともにセンター内で情報共有し、3職種の専門性を活かした対応や支援方法を検討した。特定の職員への負担を避けチームアプローチに努め、より良い相談対応の為地域や関係機関等の社会資源の情報収集、情報の更新などをおこなった。	★引き続き情報共有や社会資源の情報収集に努める。情報が古くならないように留意していく。	★地域の高齢者が住み慣れた地域で安心して生活ができるよう必要な支援を把握し、保健、医療、福祉ほか地域の社会資源につなげる等の支援を行う。
	権利擁護業務	★高齢者虐待等の通報には迅速に対応し市への報告や相談を適宜おこない適切な支援に努めた。 認知症に関する講座等を行う際には権利擁護に関する普及啓発も同時に行い権利擁護に関する理解を拡げるように努めた。	★権利擁護に関する理解を深めるための方法を検討するとともに、よりよい支援のために多くの関係機関との連携構築を引き続き行う。	★困難な状況にある高齢者が安心して尊厳ある生活が過ごせるよう専門的・継続的な視点から支援を行う。消費生活センターによる出前講座の開催の企画、東習ケア会議に権利擁護関連の情報提供や事例検討を行い理解を深める、広報紙を作成し配布や講座の開催を検討する。
	包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	★東習ケア会議を3回開催し、多職種連携や協働につなげるよう努めた。様々な専門職が参加していることから専門的見地にたった意見を聞くことができるような会議(事例検討や専門職の講義)を開催。地域のケアマネジャーの研修開催の相談や支援をおこなった。	★東習ケア会議の内容について、参加者からの意見も参考にし開催計画をたてるようにする。	★東習ケア会議を3回開催し、多職種連携や協働につなげるよう努める。様々な専門職が参加していることから専門的見地にたった意見を聞くことができるような会議を計画するように努める。
	介護予防ケアマネジメント業務	★利用者自らの選択に基づきながら介護予防サービス・支援計画書を作成。自立支援型ケアプランを意識し又地域の資源を活用することもおこなった。通いの場等の案内を継続し、男性が参加しやすい講座の開催やラジオ体操を継続。 介護予防関連の講座の案内や事業の様子については「あじさい通信」や法人のブログ等に掲載し様々な人の目に触れるよう継続してきた。	★自立に資するケアプランになっているか意識していく。住民の集まる場所へ出向くことを続け介護予防の必要性等を呼びかけや講座等の開催を検討していく。	★利用者自らの選択に基づきながら介護予防サービス・支援計画書の作成に努める。自立支援型ケアプランを意識し又地域の資源を活用しながら生活できるよう支援する。通いの場等の案内を継続し、男性が参加しやすい講座の開催やラジオ体操を継続。 介護予防関連の講座の案内や事業の様子については「あじさい通信」や法人のブログ等に掲載し様々な人の目に触れるよう継続していく。
重点運営事項		センターが重点的に取り組む事項	具体的な取組み	
1	地域ケア会議の充実	●東習ケア会議の開催を継続。年3回を予定し、地域の医療・保健・福祉関係の連携、高齢者支援に必要な情報の共有などをおこない参加者が高齢者支援に関わる際の一助になるよう努める。個別のケースについてはケアマネ等からの相談に応じ積極的に開催を働きかけケアマネジャー等の支援する。	●東習ケア会議を年3回開催計画中。 個別の事例検討、対応する際に知っていると思われず制度、専門職からの講義等を取り上げる予定をしている。多くの職種、経験の違う人が参加する会議であるため参加者の反応をみながらタイムリーな内容を伝えられるように努める。地域のケアマネジャーが対応しているケースについてもサポートや相談にのることを心がけていく。	
2	生活支援体制整備事業に関する取組みの充実	●第2層生活支援コーディネーターを中心に2層協議体「我がまち支え合いワークショップ」を継続していく。協議体の構成員は介護、福祉の関係者、民間企業や協同組合など多様な事業主体となるよう努める。第1層生活支援コーディネーターはじめ地域の多様な関係者と協力し資源開発に向けた検討や地域づくりにつなげるよう努める。身近な場所で介護予防・認知症予防に取り組める「笑学校」が現状6会場で活動中。通いの場が増えるよう立ち上げ支援を継続していく。	●第2層生活支援コーディネーターを中心に「我がまち支え合いワークショップ」を今年度は5月、10月、1月の3回開催。構成員はコンビニエンスストアの店長、生活協働組合、配食サービス事業者、民生委員、高齢者相談員、介護支援専門員、社会福祉法人、社会福祉協議会、習志野市役所。 昨年度の会議では「高齢者の困りごと」について検討し、今後の検討課題を選定することができた。今年度に入り、5月には参加者間で社会資源について情報交換、10月には情報をどう活かすか方法についても議論した。1月は実際の情報を交換し、具体的な事柄について議論が始まった。31年度も3回開催することが決まっており、具体的な内容から活用方法まで話を進める予定。 笑学校については30年度に2箇所増。全笑学校で体力測定に職員を派遣する、測定結果をプリントアウトし返却するなど後方支援も継続中。担い手さん同士の交流、情報交換の為の総会も引き続き2回計画している。	
3	認知症総合支援事業に関する取組みの充実	●認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう支援を行う。	●東習志野コミュニティセンターと共催で「認知症こどもサポーター養成講座」を開催予定。 ●「笑学校」を2会場立ち上げ支援し現在6会場となっている。継続的な後方支援に加え春と秋に体力測定と基本チェックリストを実施予定。各会場の担い手で構成される会議も年2回予定している。 笑学校立ち上げ支は今後も継続。 ●認知症カフェの立ち上げ支援を1箇所実施。現在は後方支援を行っている。 ●キャラバンメイトネットワーク「ひまわりの会」は会議を4回開催。講座の検討や認知症地域資源マップ「あじさいマップ」の更新などを行い、マップを認知症サポート事業所に配布することも引き続きおこなう。 圏域内外の認知症カフェや家族の会のつどいへの参加、認知症初期集中支援チームとの連携により認知症の人やその家族の支援を行う。	